

1. 神奈川県川崎市幸区の位置

都市構造図



幸区には川崎駅西口地区や新川崎・鹿島田駅周辺地区を中心として、賑わいの拠点が形成されており、ラゾーナ川崎プラザの商業施設や新川崎・創造のもりの中に研究施設が集積している。



川崎市幸区

川崎市は南から川崎区・幸区・中原区・高津区・宮前区・多摩区・麻生区の7区がある。

南北に長い地理的な特徴を有し、広域的に展開する市民の行動や産業経済活動、交通網の整備状況、地域の特性から、市民の日常的な生活エリアである「生活行動圏」は、鉄道沿線を中心に展開しており、川崎駅・臨海部周辺エリア、川崎・小杉駅周辺エリアをはじめ概ね4つに大別できる。

川崎市の特性である鉄道利便性の高さを活かしたこれまでの取組により、主要なターミナル駅を中心に多様な都市機能の集積や交通利便性の高い「拠点地区」が形成されている。

2. 川崎市都市計画マスター プランの概要と幸区構想の改定に向けた取組み

計画体系

川崎市の都市計画マスター プランは「全体構想」と「区別構想」及び「まちづくり推進地域別構想」の3層から構成されている。

各構想の役割

【全体構想】
川崎市全体のまちづくりの方針

【区別構想】
行政区ごとのまちづくりの方針

【まちづくり推進地域別構想】
おおむね小・中学校区程度の身近な地域におけるまちづくりの方針

【都市計画事業等】
(都市施設、市街地開発事業等)

川崎市の策定経過

平成19年3月
「都市計画マスター プラン全体構想」及び「都市計画マスター プラン区別構想(全7区)」を策定

平成21年3月
「都市計画マスター プラン 小杉駅周辺まちづくり推進地域構想」を策定

平成29年3月
策定から10年が経過したことやこの期間中に川崎市の総合計画が新たに策定されたことから、「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」とともに「都市計画マスター プラン全体構想」を改定

平成29年4月
全体構想の改定を受けて、「都市計画マスター プラン区別構想」の改定に着手(市の北部から順次改定)
→平成31年3月に多摩区構想・麻生区構想を改定済み

区別構想改定の新たな視点

①コンパクトで効率的なまちづくり
少子高齢化の進行や人口減少を見据えたコンパクトで効率的なまちづくりとして、交通利便性の高い駅周辺地区等への多様なニーズに対応した都市機能の誘導や公共交通によるアクセス向上などをめざす。

②生活行動圏を踏まえた鉄道沿線まちづくり
拠点整備の波及効果を効率的かつ効果的に活用し、より身近なまちづくりを推進するため、市民の生活行動圏に着目した鉄道沿線まちづくりをめざす。

【各区の経過】

年	1991 1999	1992 2000	1993 2001	1994 2002	1995 2003	1996 2004	1997 2005	1998 2006	1999 2008
総合計画	「川崎市総合計画 2010年版」								
金井構想	新東京都市計画案								
区民検討委員会設立									
区民提案検討 各区分約2年、 複数区分並行して約7年間									
区民提案 作成									
市による 素案の検討 ・提案基準 ・上位計画 との整合									
素案 決定									
パブリック 説明会									
案 審定									
権限 委託書									
決 定									

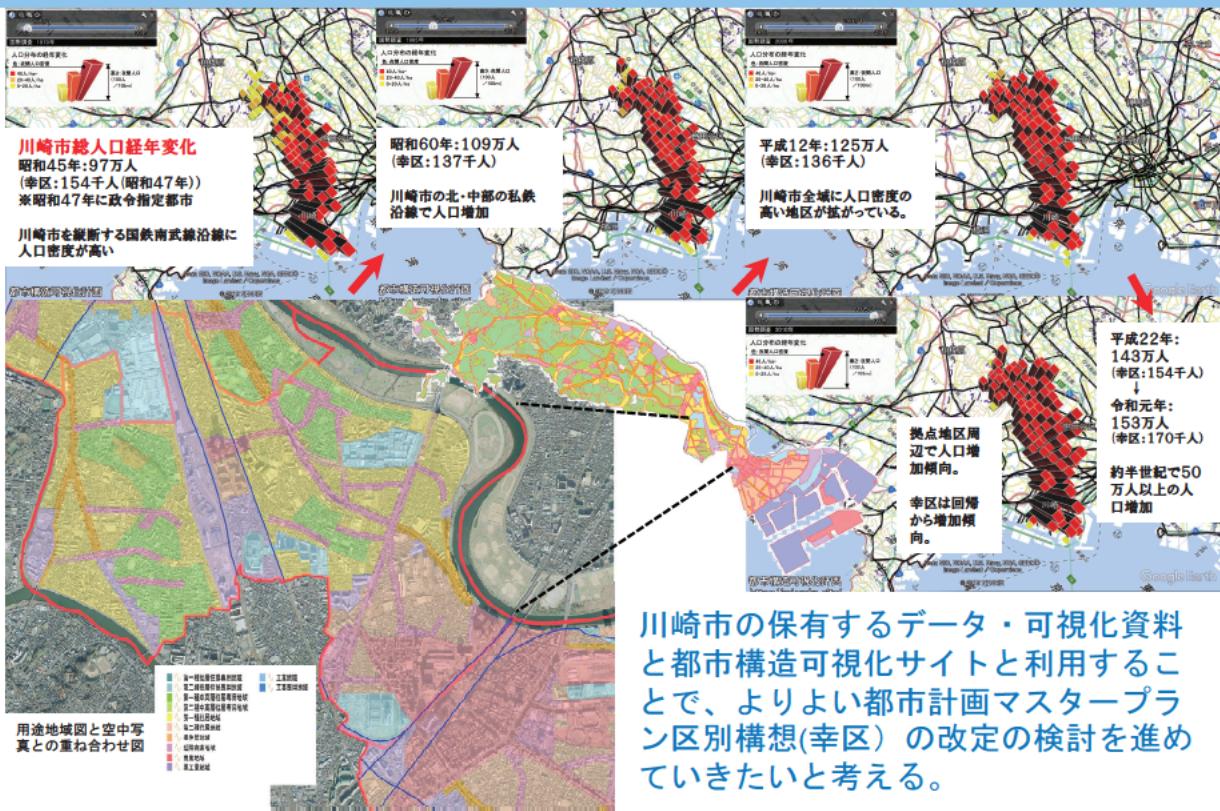
【つくる参加】
区民によって構成される区別構想検討委員会を立ち上げ、約2年かけて将来の都市像を展望した区民提案を作成

【決める参加】
区民提案を踏まえ、庁内調整や小委員会からの助言を受けて、行政計画としての都市計画マスター プラン素案を作成
⇒素案の検討、パブリックコメント等を経て、最終的に策定

i-都市交流会議2020

3

3. 今後の検討での活用事例



補注 : 都市構造可視化計画、地理院地図を使用

4

4. 抱点地域の都市の変化

川崎駅周辺地区



i-都市交流会議2020

5

5. 抱点地域の都市の変化（その2）

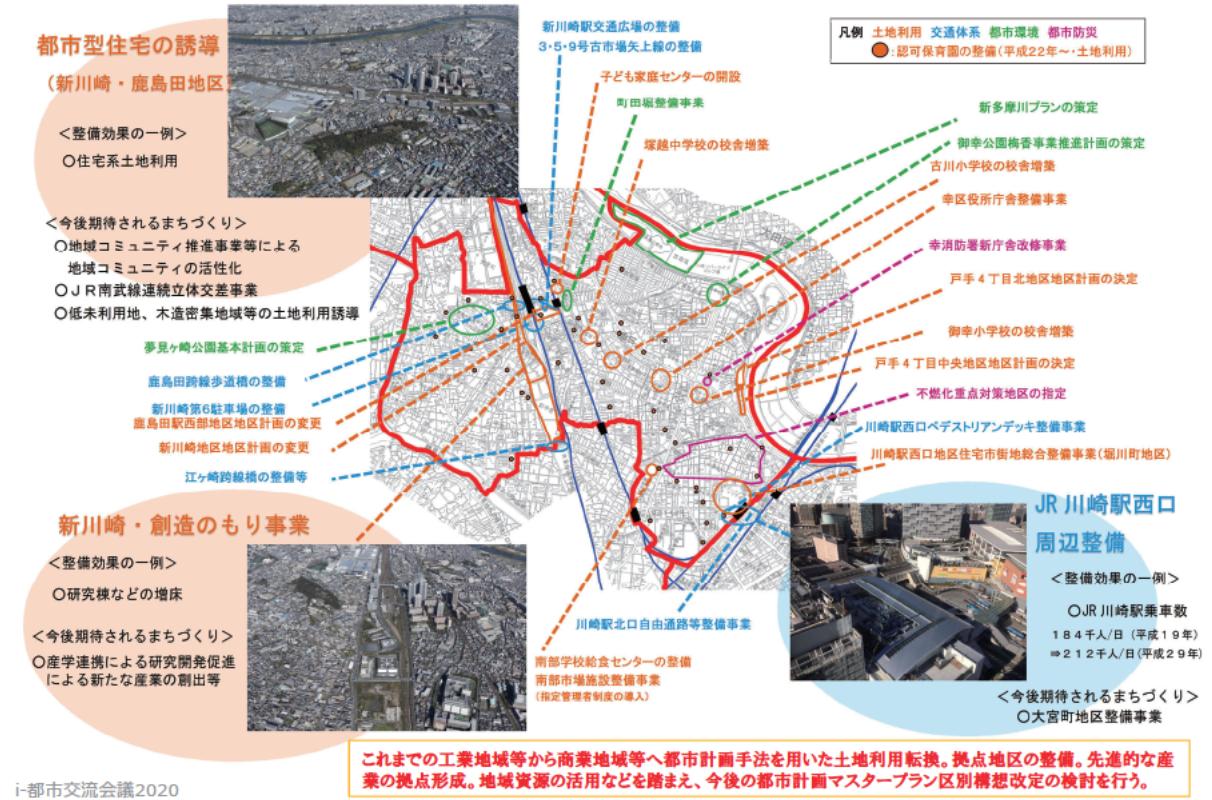
新川崎駅・鹿島田駅周辺



i-都市交流会議2020

6

6. 川崎市都市計画マスタークリーン幸区構想の策定後に進められた主なまちづくり



7

神奈川県川崎市まちづくり局

計画部都市計画課



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川 崎 市